

わたしたちの学校 新校舎に入って

昭和四十七年度 五年 女兒

指折り数えて待っていた新校舎への引っ越しが、今日行われた。校舎のできあがっていくのを見ながら、この日の来るのを夢見ていたのがやっと今日実現された。

校舎に入ってまずびっくりしたことは、目の前が一面ぱっと明るくなったことだ。気持ちも明るくのびのびしてくる。申し分ない。教室の床は、すべるように初めは少しこわかったが、慣れてきたら気持ちがいい。

工事をしてくれたおじさん、この校舎を設計してくれたおじさん、ありがとう。教室にはたくさんの照明があり、大きな窓があって、どんなに天気の良い日も明るく勉強ができる。廊下には広い水飲み場があり、まっすぐ美しい鳥海山をながめることができる。私たちが勉強しやすいように非常に便利にできている。何だかこの新校舎に入っただけで頭が良くなっていくような気がする。今までの校舎とはくらべものならず、学校にしておくのはおしいくらい

だ。

私たちはこんなすばらしい校舎に入っているのに、一、二年はまだ古い校舎で勉強している。できたら全員で新校舎に入って勉強したいと思った。こんなにっぱな校舎で勉強できて、とても幸せだと思う。

でも、建物だけりっぱでも、中の私達がだらしなれば価値がないと思う。いつまでもこのままのきれいな校舎にしておかなければならないし、せっかくの設備を大いに活用していきたいと思う。一年半この新校舎で一生けんめい勉強してりっぱな人間になりたいと思う。